

室蘭製造所 H-4棧橋における重油漏洩事故について

記者各位

JX日鉱日石エネルギー株式会社室蘭製造所

当製造所(所長:三ツ井 克則)幌 萌地区H-4棧橋において、本年3月24日(月)に発生しました重油漏洩事故の原因調査結果および再発防止策について、下記のとおりご報告いたします。

このような事態を招き、地域の皆様をはじめ関係各位に対し、多大なるご心配・ご迷惑をおかけしましたことについて、心よりお詫び申し上げます。

今後は、関係官庁のご指導の下、再発防止策を確実に実行し、安全安定操業に努めてまいります所存であります。

記

1. 経緯

・3月24日(月)

- 4時30分 棧橋付近で作業中の協力会社社員が油の臭気を感じたため、周辺調査を実施したところ、H-4棧橋C重油配管(以下「本件配管」という)からの重油漏洩を発見
- 4時38分 連絡を受けた当所社員が公設消防殿および海上保安部殿に通報
- 5時15分 当所非常対策本部を設置
- 5時33分 漏洩停止措置実施
- 10時 2分 漏洩配管応急処置完了。油回収作業開始

・3月26日(水)

- 14時30分 油回収作業終了

・3月27日(木)

- 8時00分 当所非常対策本部を解散。以後、海上および陸上からの監視を継続中

・3月31日(月) 関係官庁に原因調査報告書を提出

なお、海上の重油回収作業については終了しておりますが、当所および近隣の護岸の一部に付着した重油については、引き続き、洗浄作業を実施してまいります。

2. 漏洩量(推定)

800リットル(発見当時の海上流出範囲:幅20m×長さ400m)

今回の漏洩の範囲は、室蘭港内防波堤内(白鳥大橋東側湾内)に留まっており、内防波堤の外への拡散は現在のところ確認されておりません。

3. 原因と再発防止策

(1)原因

H-4棧橋は1973年に当所の第一次拡張工事に合わせて建設され、本件配管は、H-4棧橋からC重油を出荷するために1979年に設置されたものですが、同配管のバルブの接続フランジ付近で、内径3.0mmと1.5mmの2つの穿孔(ピンホール)が認められており、この部分から漏洩したものです。

当該漏洩部分は、2011年に定期点検を行っておりますが、配管の保温施工時におけるシール材の施工忘れ、および点検時のシール材不良見落としにより、雨水等が内部に侵入し保温材(グラスウール)が湿潤状態となったことにより、外面腐食が進展したものと考えられます。

(2)再発防止策

今回漏洩が発生した配管を撤去するとともに、シール材の施工忘れおよび点検時の見落とし防止のため、作業に従事する当所社員・協力会社社員の教育を再徹底いたします。また、点検時の注意事項として本事例を追加し、再発を防止いたします。

なお、H-4 棧橋上の類似箇所(5か所)を調査した結果、いずれも問題は認められませんでした。また、H-4 以外の4つの棧橋については、本年4月末までに点検を行い、必要な措置を講じる予定です。

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

室蘭製造所 総務グループ 高木、太田

電話 : 0143-55-1111